

《今週号の主な内容》

■先週・今週の報道発表

RPPC に関連する発表は、特にございませぬ。

■RPPC 事務局からのお知らせ

特にございませぬ。

■リサイクルポートに関連する最新の情報

1. 国交省、次期技術基本計画骨子案を議論、年度内策定
2. 広島港の次期港湾改訂計画の策定に向けた作業を開始
3. 四日市港、整備計画立案に向け企業から需要ヒアリング

=====

◇リサイクルポートに関連する最新の情報

1. 国交省、次期技術基本計画骨子案を議論、年度内策定

国土交通省は9月9日、「社会資本整備審議会・交通政策審議会」の第18回技術部会を開催し、平成29年度から5年間を計画期間とする新たな国土交通省技術基本計画の骨子案について議論した。建設現場における生産性を向上させる「i-Construction（アイ・コンストラクション）」の取組みやストック効果の最大化、地球規模の環境への対応、新技術情報提供システム（NETIS）の充実等に向けた施策を盛り込む方針が示された。今年11月頃に開催する次回会合以降に整理し、年度内に計画を策定する。

現行の同計画（24年度～28年度）では港湾関係として、防波堤の「粘り強い」構造の開発や超大型バルク船に関する水域施設（航路、避泊地等）諸元の計画手法開発、津波防災に関するハード・ソフト複合対策の評価に関する研究促進、などの技術研究開発課題を位置付けていた。

【港湾空港タイムス】

2. 広島港の次期港湾改訂計画の策定に向けた作業を開始

広島県は広島港の次期港湾改訂計画の策定に向けた作業を開始している。7月末に第1回広島港長期構想検討委員会（委員長・須野原日本港湾協会理事長）を開催しており、年内に第2回委員会を開催し、年度末にも長期構想を取りまとめる。そして29年度末に改訂計画を打ち出す方針。長期構想では20～30年先を見越した広島港に寄せられる姿を描くと共に、改訂計画では10年～15年を目標とした要請事項を計画に取り込む。

7月の第1回長期構想委員会では①物流・産業、②人流・賑わい、③安全・安心の3視点で広島港の置かれている現状や課題の抽出を行った。

この中で「物流・産業」では、▽海上コンテナ物流について、グローバル化に対応した広域的な交流・連携基盤強化への要請、▽完成自動車輸送機能の強化、▽リサイクル関連の輸出機能の強化、等が挙げられた。

【港湾空港タイムス】

3. 四日市港、整備計画立案に向け企業から需要ヒアリング

中部地方整備局は四日市港の霞ヶ浦地区、四日市地区を対象に企業の港湾機能への需要動向調査を行い、今後の整備計画立案に向けた取りまとめを行う。

四日市港は平成 23 年に 30 年代前半を目標とする現行の港湾改訂計画が打ち出され、▽外貨バルク貨物取扱機能の強化、▽コンテナ貨物取扱いの集約による効率化、▽完成自動車など内貿貨物の取扱機能の集約化、などを狙いに、必要な施設として大水深公共埠頭計画などを位置付けている。

ただ現状は臨港道路霞 4 号幹線の早期供用を中心とした事業に予算の過半が投入されており、新たな公共ふ頭の整備等については未着手のままになっている。

今回の調査はこうした現状を踏まえ、大型バルク船の就航などに対応する今後の港湾機能の拡充を念頭に企業からヒアリング、需要を把握して必要な港湾整備計画を立案する。調査の視点としては①石炭取扱機能の強化、②完成自動車の取扱機能の集約化、③コンテナ取扱い機能の集約化及び強化、を上げている。

【港湾空港タイムス】

//

発行者：RPPC 広報部会

部会長：徳田 英司	新日鐵住金（株）
部会員：山崎 和宣	五洋建設（株）
木村 竜也	東京都
梅木 重光	（株）酒田港リサイクル産業センター
紫牟田 和隆	光和精鉱（株）
新谷 聡	りんかい日産建設（株）

リサイクルポート推進協議会 事務局

一般財団法人みなと総合研究財団（内） 担当：本野、清水、菖木

URL：www.rppc.jp E-mail：rppc_jimukyoku@wave.or.jp

//

- 会員主催や会員に関係した催し物（セミナーなど）の情報がありましたらご連絡下さい。開催案内等の情報をメルマガで配信致します。
- メルマガ配信先に変更がある場合、事務局までご連絡下さい。
- メルマガに関するご意見、ご要望がありましたらご連絡下さい。